

文化財さしあたり登録せず

二〇〇八年二月三日、総代会が開かれ、懸案であった長ノ木本坊本堂の呉市指定文化財への登録について話し合われました。一度は、修復委員会で「登録する」方向で決定されましたが、その後「やはり一部の者だけで決めてはいけない」ということで、広く門信徒のご意見を賜るべく意見調査書を配布いたしました。回収率は低かったのですが、結果は「登録に賛成」よりも、「反対」と「もっと先で決定すべき」という意見の合計が、わずかながら上回りました。

この結果を受け、再度総代会で話し合い、「さしあたり文化財登録は行わない、もっと先で決定する」ということに決定しました。もっと先とは、本当に文化財に値するものであれば、市の方から言ってくるはずだから、「その時」に検討。修復は、門信徒で行うのがスジで、援助を期待すべきではない。大きな修復の必要は五十年はないが、その際には、諸状況をふまえて、必要であれば検討するということになりました。

葬式には団子を四十九個？

【質問】お通夜の時、お手伝いをしてくださる地域の方々に「団子を四十九個作ってお棺の上のお皿に盛り、出棺時にはお棺に入れるよう」強要されました。理由は「一日一個ずつ故人が食べて空腹にならないように」とのこと。そんな作法があるのでしょうか？

①団子の件

この辺では聞いたことがありませんでしたので、あちこちのお寺に問い合わせました。すると、倉橋の一部や蒲刈島あたりでは、今も葬式に団子を供えるとのことでした。しかし数は関係なく、また故人が食べるためではありません。報恩講など、仏事に供える小餅や団子などの「お供え」が、どこかで話がズレて、そんな意味になってしまったのではないかと思われます。

②強要の件

僧侶も同様、お世話をする者は気をつけねばならないと思います。よかれと思って言ったりしたりした事でも、結果として相手の足を引っ張ってしまったり、傷つけたりしてしまうのです。聞くと、その通夜葬儀では、お世話ができる身内が少なく、親戚の送迎、食事の世話、布団の世話など、肉体的にも精神的にも限界だったそうです。そんな中で、今まで経験してきた葬式ではしたことのない「粉から作って団子を供えること」は、「どうしてもすべき本当に大切なこと」ではなく「限界を超えた理不尽な負担」以外の何ものでもなかったようです。身も心も限界状況の人に接する場合は、慎重に相手の気持ちを確認してお世話をすることを忘れないようにしたいですね。

前坊守二十五回会法要
前住職十七回会法要

西方寺の猪野弘経ご住職

えんじ かいがんしやうえんじわしやう
円寺・海岸正円寺・和庄
みやうほうじ あすまちやうみやうほうじし
明法寺・吾妻町明法寺支
坊ご住職等にご出勤いた
だき、長ノ木本坊でもお
勤めいたしました。

去る二〇〇七年四月
二十一日、藏本通支坊で、
信楽寺・光行寺・西方寺・
光源寺・浄念寺さんらにご
出勤いただき、有縁の僧侶
ご門徒とともに前坊守ナヲ
(釋尼秀圓・院号直入院)
の二十五回会法要をお勤め
いたしました。猪野弘教(西
方寺住職)さんに、前坊守
の思い出話とご法話をお聞
かせいただきました。
これに先立ち、宮原正





